

2.1.3.スピリチュアル系書籍に描かれた先祖観と墓参りの作法

問芝 志保

1. はじめに

本稿は、「先祖祭祀・供養や墓参りはどうあるべきか」を説いた各種の作法書のなかでも、あえて、周縁的な言説と位置づけられる、いわゆるスピリチュアル系の書籍を対象とする。

こうしたスピリチュアル系の動向に関しては、情報化社会がもたらした宗教実践の一側面として、宗教学領域での研究対象となっている。たとえばパワースポット・ブームのなかで、スピリチュアルを自称する宗教者・霊能者やテレビタレントといった多様な人々が、神社や寺院における独特な参拝方法を「おすすめ」などとして紹介することがある。それはたとえば「ご神木に抱き着いてパワーをもらう」、「ご利益のあるモノの写真を撮ってスマホの待ち受け画面にする」といったもので、それが迷惑行為にあたる場合には神社・寺院側から批判の声が上がることもある [岡本 2021]。本稿では、墓参りに関して、それらのスピリチュアル系書籍がいかなる意味づけや実践を記述しているのかを明らかにする。

ところで、このようなスピリチュアル系の書籍を手取るのは、いわゆるスピリチュアルな人がほとんどであるから、その内容はそうした人々のニーズにのみ合致するとか、あるいは一般の人々の宗教的信心・実践とはかけ離れているため全体的な影響は限定的であり検討に値しない、との見方もありうる。しかし、たとえば貞包英之は、「スピリチュアルなものへの関心は一見浅薄なものにみえるとしても、しかし同時にそれがこの「消費社会」を生きる人びとのある意味で切実な幸福や不幸にかかわる願いの領域を形成している」 [貞包 2010] と指摘している。また山中弘も、スピリチュアル市場という「常に消費者の選択が優位なマーケットにおいて、競争に勝ち抜くためには、供給される商品は消費者の好みに合うように調整される必要がある」 [山中 2017] と述べる。つまり、スピリチュアル系の書籍は一般の消費市場において提供されている以上、どのような人でも手に取って、その言説に触れられる状況にある。人それぞれにスピリチュアルなものへの関心の度合いは異なり、ヘビーユーザーからライトユーザーまでの広がりをもっており、時と場合、あるいは自らの「願い」や「好み」に応じて商品を選択しているのである。一方スピリチュアル系書籍の著者側も、消費市場で本が売れることを願って執筆している以上、その記述内容は単に一方的に自説を説くというよりも、むしろ人々のニーズに応えるような記述がなされる。したがって、スピリチュアル系書籍の分析は、日本人一般とまでは言えないにせよ、市場におけるニーズを一定程度反映していると考えられるのである。

なお、本稿は学術目的でこれらの書籍の内容を紹介するものであり、賛同・批判いずれの意図もない。

2. スピリチュアル系墓参り本の内容

(1) スピリチュアル系書籍で説かれる先祖供養や墓参り

本稿では 2018～2019 年に刊行された、書店ではいわゆるスピリチュアル系の陳列棚に並んで

いる類の、一般書6冊を取り上げる。

これら6冊の書籍の傾向は、スピリチュアル系のなかでも、いわゆる精神世界やヒーリングを強調する世界観のものとは少々異なっている。「幸せ、開運」の実現のための「最高の、本当の、すごい、あなただけの」「メソッド、習慣、心がけ、ヒント、コツ、小さなこと、テクニック」、あるいは「プラスαの、コスパのよい」方法として、簡単な宗教的实践や生活習慣、思考法（「感謝、生かされている、ありのまま、自分を大切に、ポジティブ」）などを、「するとよい」「してもよい」「気になることや、ワクワクすることから、取り入れてみてください」といったように柔らかな書き方で勧めている。そのなかで先祖や墓参りは主に、親・先祖・生かされていることへの感謝の重要性とともに、先祖による超自然的な守護や開運に言及しつつ説かれている。

まずは各書について、①著者のプロフィール（自称する来歴・肩書）、②書籍の概要、③墓参りに関する記述の概要を、それぞれ整理する。

A 真壁辰郎 2019『「あなた担当の神様」のみつけかた——人生を変える産土神社の守護』飛鳥新社

- ① 1959年京都府生、男性。肩書は「産土神社鑑定士」。生家は伏見稲荷大社のすぐ目の前にあり、「産土神様」の導きで霊的な力を磨いた。何度も神秘体験をし、修行によって開運力・守護力を強化した。鑑定歴は16年、延べ5,000人に及ぶ。
- ② 産土神様＝「あなた担当の神様」との絆を深めていくと、運気は向上し、魂がぐんぐんと成長する。最高の後押しをいただいて、人生をよりよくしていく方法を紹介する。
- ③ 人は皆母親から生まれるため、霊的な影響は母方先祖から受ける。父方母方両方の菩提寺参詣により、守護の強化、開運、天命の導きを得られ、全ての先祖の開運につながる。母方の菩提寺・墓参りをしていないと霊的なブレーキを受け、開運効果は得られない。

B 竜庵 2019『清く、正しく、欲を持って。——幸せな人生を呼び込む80のルール』イースト・プレス

- ① 男性。肩書は「スピリチュアルカウンセラー、カリスマ美容研究家、ホリスティック・ビューティクリエーター」。日本でのヘッドスパの先駆者である。10代の頃に突然「光の玉」が降ってきて長時間の説法を賜り、そのときにスピリチュアルな能力を授かった。これまで10万人以上に鑑定・アドバイスを行った。
- ② 幸せな人生を呼び込むメソッドとして、引き寄せる、天を味方につける、エネルギーを循環する、邪気を祓う方法を紹介。
- ③ 先祖の墓は自分の家系のパワースポットである。墓では死と生という陰陽のエネルギーが触れ合うため、エネルギーの活性化と浄化が始まる。台座の横線と墓石の縦線が交差している点でも墓石はプラスとマイナスのエネルギーが交わっているといえる（十字架にも通じるものがある）。マンションタイプの墓でも土地と建物全体が陰陽のエネルギーを受けているので安心してよい。

墓参りはピクニックに行く気持ちで頻繁に行くべき。墓前では先祖と大いに語らい、何でも相談すべき。先祖は土をとおして守るパワーをくれる。墓参りの際には、五穀を半紙にくるみ周囲の5

カ所に置く。墓石の右手前の土を半紙にくるみ持ち帰れば、その土は先祖からのお土産となる。

部屋のなかに「先祖の座布団」（図解あり）を作成すれば部屋でも墓参りができる。部屋での墓参りは、先祖のご加護をいただくために、毎日の習慣にすべき。

C 大石真行 2018『#運勢コスパー——効率よく運を上げる 50 の裏ワザ』説話社

① 1959 年東京都生まれ、男性。肩書は「占いのエキスパート」。東洋占術で、子平、紫微斗数、東西占星術、奇門遁甲、六壬、易、地理風水、人相、手相などを鑑定する。

② 人生の方程式は、<努力×運=成果>。努力量が同じでも、運が違うだけで成果に雲泥の差が出る。時間・お金・労力をかけずに運を上げる方法を紹介する。

③ 先祖は困った時に力を貸してくれる。墓はあの世とこの世をつなぐモニター。神社やお寺と比べて、最も私利私欲を叶えてくれるのがお墓参りである。天国のおばあちゃんは今でもお小遣いをくれる。おばあちゃんの背中を流すように、温かいお湯とタオルで掃除しながら「おねだり」とよむ。

中国の風水と異なり、日本では先祖の力を借りて開運する。特に金運コスパーを上げる。彼氏が結婚を決断してくれない時、彼の先祖の墓に直談判すると縁談がまとまった例もある。

D 川井春水 2018『運を操る開運秘術——悪運を消し、いいことを起こす』三笠書房

① 広島県生まれ、女性。肩書は「莊嚴契密法、魂伝師、開運アドバイザー、スピリチュアル界のグローバル母さん」。松浦水軍一族の直系の末裔。幼少期に二度の臨死体験後、霊能力を得る。霊視や予言が的中。FBI に協力したことも。山中の寺で約 30 年修行し莊嚴契密法を修得した。

② 幸運を運ぶ“運気の扱い方”を紹介する。

③ 莊嚴契密法の 3 本柱は、自分に自信を持つこと、先祖を大事にすること、他人の秘密を守ること。先祖は子孫に繁栄してほしい、助けよう、守ろうとしている。ご先祖さまこそがあなたの神である。

お墓はあなただけの最強のパワースポット。誰もが参りする有名寺社より、子孫だけの願いを聞いてくれる特別な場所。先祖は崇らない。

墓参りは明るいうちに。たわしは右回りに回して磨く。正面→右→後ろ→左の順。話しかけたり願い事をしたりしながら。無心にお墓を磨くと心の垢も落ちる。先祖が乾きで苦しまないように水をかける。墓の四隅と前に、塩と半紙でくるんだ五穀を埋める。その横の土を少量半紙に包んで持ち帰る。この土は次のお参りのときに持参して戻す。

「ご先祖さまの座ぶとん」（図解あり）を作れば、家でも墓参りができる。

墓じまいをしてもよい。心からの感謝の気持ちが大切。ご先祖さまの座ぶとんや花一輪だけでも、供養はできる。樹木葬や海洋葬などもいい。

E 橋本京明（ラスト陰陽師）2018『神様に愛される 本当に願いが叶うお参り』辰巳出版

① 男性。肩書は「日本最後の陰陽師、ラスト陰陽師」。神官の家系に生まれ、幼い頃から念視・予知をするなど「不思議な力」を持ち、8 歳から四柱推命・紫微斗数など数々の占いを学ぶ。金峯

山寺や比叡山行院で修行。占いの個人鑑定は1万人を超える。

② 本当に願いを叶えたいのなら、「マナー的に正しいお参り」よりも「願いが叶うお参り」を知
るべき。

③ 成功者は神社参拝と同様お墓参りを大切にしている。お墓参りを習慣にすれば、より強い力で
守ってもらえるので必然的に運氣も上がる。金運アップには神社よりもお寺やお墓参りが最も効果
的。

お盆やお彼岸には必ず墓参りをすべき。電波には霊が集まりやすいので、災いを呼ばないために、
スマホなどは持ち込まないか電源をオフにするべき。水道水で墓石のほか墓誌や入り口、外柵など
も素手で掃除。ワンカップ酒の3分の1で手を清める。もう3分の1を墓の敷地内に流す。持参
した天然水2リットルを墓石にシャワーのようにかける。最後に未使用の白タオルで拭き、供花、
ロウソク、線香。合掌。線香の火が消えたら、墓前で供物を食べる。お酒の残りは持ち帰ってすぐ
に台所へ流す。

お墓参りをしていないと結婚につながる出会いが得られにくい。骨壺を整理しスペースを空けると、
途端に縁談が来るなど、運が開ける。婚活がうまくいかない場合は先祖代々のお墓を調べてみ
るべき。

御朱印を実家のお墓の敷地内の右奥に埋めると仕事運が向上する。入口両脇に埋めると健康運が
向上する。

F 松尾法道 (東明山興福寺住職) 2018『「運氣の代謝」があがる！——日常作法のコツ』文藝春秋

① 1950年長崎県生、男性。東明山興福寺住職、長崎市仏教連合会会長、日本礼道小笠原流長崎
県支部会長。これまで多くの人生相談を受けてきた。

② 日常でたまる陰の気や不安、厄を浄めて、毎日に幸運を呼び込む53の人生上昇術を紹介する。

③ 「お墓参り」は、最強の浄化方法である。無心に掃除、供花、手を合わせて祈ると、心の波
動が静かになめらかになり、最強の浄化になる。まずは感謝を伝える、最近のいい報告をす
ること。墓参りは家族のコミュニケーション。子供にお祈りすることを教えることで、「いのちの過去
帳の申し渡し」ができる。自分が生まれてくる前に親や祖父母らの人生がある、自分のうしろに
歴史があると思うことが、子供の生きる「よすが」になる。

(2) スピリチュアル系書籍で説かれる墓参りの作法

スピリチュアル系書籍のなかで、具体的に墓参りの実践がどのように記されているかを確認して
おきたい。上掲のうち最も墓参りに関する記述が多い、E 橋本京明 2018『神様に愛される 本当
に願いが叶うお参り』は、イラストとともに「お墓参りの正しい手順と作法」を示している。特に
特徴的と思われる箇所を引用すると、次のとおりである。

「ご先祖さまに会いに行くお墓参りにも、正しい手順と作法があります。」

「持参するもの ・五供：線香、灯燭、水、御食（食べ物）、花 ・お墓を清める天然水（お
墓一基に対して2リットル） ・新品の白いタオル ・ワンカップ酒（ラベルをはがしてお

く)」

「霊園の敷地内に入るとき、自分の家の墓地区画に入るときに、それぞれ一度ずつ合掌をします。」

「墓石は素手できれいにしてください。」

「お墓の掃除が終わったら、自分の手を清めます。水で汚れを洗い流したあとに、持参したワンカップ酒の1/3ほどを両手にかけて流してください。」

「次に、ワンカップ酒のもう1/3ほどをお墓の敷地内に流してください。」

「持参した天然水を墓石の頭のほうからかけ流します。墓石は故人の体そのもの。シャワーで清めるように、2リットル分をたっぷり流してください。」

「天然水で流し終えたら、白いタオルで墓石の水けを拭き取ります。故人の体ですから、きれいなタオルで、優しくていねいに拭いてあげましょう。」

(引用者注：この後、ロウソクに火を灯す、線香をあげる、合掌して語りかける、供物の御食を食べるという手順がある)

「お参り後も自分の家の墓地の前と霊園の前で一度ずつ合掌をします。」

「お墓に持参したワンカップ酒の、残り1/3は、自宅まで持ち帰って帰宅後すぐに台所へ流してください。これをもって、無事にお墓参りが終了です。」

同書が記している「正しい手順と作法」は、全体は通常の墓参りの流れであるが、いくつか独特な作法も含まれているといえる。ワンカップ酒や天然水を使用するべき理由等の記載はなく、根拠は不明である。ただ私たちはそもそも、一般的に行われている、墓に水をかける行為やロウソクを灯す行為についても、何がその「正しい」理由や方法なのかをつぶさに知っているわけではない。むしろこのように「正しい」と断言されたほうが、よほど受け入れがたい言説でもない限りは、不安なく墓参りに向かえるのかもしれない。

3. おわりに

上記で見たような、先祖や墓に関する一種のスピリチュアルな言説、たとえば自家の先祖の墓をパワースポットと位置づけたり、墓参りを開運や浄化の実践と説いたり、酒や天然水を用いる作法を示したりすることは、スピリチュアル系の世界観を受け入れていない人々の目には奇異に映る可能性もあろう。墓域内に日本酒を撒くと、墓石が傷む、糖分で虫が発生するといった実際的な問題も生じそうである。

しかしながら、冒頭で述べたように、スピリチュアル系書籍の主張が非スピリチュアル系の一般の人々の心性やニーズと全く乖離しているわけではなく、何らかの接点があると仮定するならば、本稿が取り上げた書籍の記述は、改めて先祖供養や墓参りをする意義を確認し、さらにその際により効果的な方法を知りたいと願うニーズの存在を示しているだろう。現代日本社会では墓を維持継承することの困難さが指摘され、自然葬や永代供養の商品化が進んでおり、それともなつて子孫が墓参りをする意義が揺らいでいる状況にある。そこで、従来いわれているような先祖への感謝・

報恩、あるいは自己確認といった面のみならず、「墓参りで開運する」「先祖の加護を得る」といった現世利益的な側面を強調するかたちで、墓参りの意義が再確認されていると考えることができる。先祖の加護を願うことそれ自体は従来の先祖観と同様だが、「家」的な要素が弱まり個人的な「幸せ」「パワー」「金運」「浄化」が前面化している点は注目される。さらに、こうした傾向が開運・パワースポットの流行と結びつくことで、墓が「自分の」「最高の」パワースポットとして位置づけられているのである。

日本の先祖・墓・墓参りをめぐる言説は、もとより伝統宗教教団の専有物ではなく、近代以降から戦後にかけての法制度や教育制度、マスメディア、消費市場、学界、文学作品等々も含めた広大な言説空間のなかで多様なアクターにより語られながら、変容し続けながら、形作られてきた国民的習俗であるといえる。本年度はスピリチュアル系の書籍を対象としたが、次年度以降は、先祖祭祀・供養や墓参りのあり方を説いた、一般向けの作法書（具体的には各仏教教団やマナー講師、葬儀・石材業界関係者による刊行物）を扱い、検討を進めていきたい。

参考文献

- 岡本亮輔 2021 「パワースポット・ブームと風紀——誰が神社を語るのか」高尾賢一郎ほか編『宗教と風紀——「聖なる規範」から読み解く現代』岩波書店
- 貞包英之 2010 「スピリチュアル 消費社会のなかの宗教」遠藤知巳編『フラット・カルチャー——現代日本の社会学』せりか書房
- 山中弘 2017 「消費社会における現代宗教の変容」『宗教研究』91(2)